

弾圧には、より巨大な反撃を！

弾圧に抗し、抜く沖縄全軍防

去る23日全沖縄軍防組は、19日午前零時に始まる120時間スト、前夜の土、日の休業を併せて、更なる日間に渡る空前の大ストライキを成功裡に引き抜き、宜野湾市普賢所に約3万人の参加のもと、総決起大会をもった。会場上空をベトナムを掃討作戦に使われる米軍の大空襲の様な威嚇的飛来中、大会は空前の長期ストの成功を確信し、「米軍当局が要求を拒否しつづける限り、且防衛の方の全軍防組を結集、セネスト体制をこの斗争宣言を採択した。

68年4月24日の十割年休ストや69年6月5日の「銃剣スト」が勇躍前進するよりに、常に沖縄人民の最前頭で立ち上がり、抜いてきた全軍防に対し、在硫米軍（全軍合同所州委）は、昨年12月24日百名にのぼる大量解雇計画を発表し、更に12月5日にオニ波四二名、今年に入つて1月6日にはオニ波七二名の解雇通告を行った。

これは、オニ波通告四二名の内訳が組合役員9名の他、活動家を多数含む。

いることを明らかに、オニ波、至七削減と大量解雇と併行強化と基地村能の高度化という大スジをもち、把握されるべき沖縄強化、配置転換、合理化を、含み攻撃であり、オニ波に、痛口主義に、つて不可逆な軍事の増進化における矛盾を一歩「基地依存型生活」の防衛者に集め、中し、危機を打開せんとする時、常に反撃の急先鋒となつてきた全軍防の闘いを、圧殺するものであり、何よりもこれを昨年11月、人民の流すおびた、だしい血の中とに、こやかに会談した佐藤とニクソンの「誉り高き日米同盟声明」の内閣化のオニ波に他ならない。

過去、幾度かの勇烈な闘いを通じ、民族主義復帰運動と反帝隊主義とミソの地平に、既に12月2日臨時組合大会で90%という圧倒的過半数を確保し、一月8日9日の48時間スト、1月19日、23日の60時間ストという三波の反撃を、組織し、更にオニ波に向け態勢を整えつつある。

この全軍防の強固な後援に恐怖した、

米軍当局は、オニ波斗争参加者に対し、1月24日遅れた陸軍関係が二五六名に、全員三日間の懲戒処分を行い、陸軍の処分が本格化するにつれ、この数は、更にふえるという勢を、じじみた未曽有の大弾圧をひきこきこいる。また、オニ波斗争中、武装米兵の威嚇の下、ビラを死守する防衛者5名を不当に逮捕し、40名を負傷させるという暴力的弾圧を強行し、或いはオニ波の闘いには「オニ波以上の処分を行う」という桐喝を加えこきこいる。

だが不屈の全軍防は、「沖縄を基地反革命の島から、アジア革命の火の島へと転化させよ」と、オニ波の闘いを2月20日目前級に、米軍人を含めた全島の基地入りを阻止する「完全基地封鎖」の全島セネストを準備し、その組織化に入った。

弾圧には、より巨大な闘いを反撃する！全軍防の闘いに連帯し、全日反撃は、全日全島闘いの1月17と22日の闘いに引き継ぎ、2月4日、全日各地で集會、デモを敢行する。オニ波セネストの陣の総評のあつた、

宇治大久保基地撤去

自衛隊解体 闘争

オニ波回公判

オニ波 京都地裁に 結集せよ！

寄稿

ともに闘いを展開してこられる同志へ、僕たちは、住友化、住友材機など大企業の存在する独自資本の街、防衛者の街新居浜において運動を行なっています。

防衛運動の右傾化の進む中、また、社民も存在しない中、改選を期をのりこえた防衛者組織を追求します。私達の公平さでは、学習会等は、自衛隊文書を利用してより、今度榎谷君産後真相究明反弾圧委員の結成を知り、その活動に協力したく思います。とりあて、その名が加盟致しますが、今後広げたいと思ひます。 N・A

裏切りをくり返させはならない。全軍防のオニ波、オニ波の闘い、更に引き続く沖縄人民の困難な闘いに対し、持続的な共闘組織を生産し、地域に創出し、昨秋期政治決戦を文書通り「決戦」として一歩の量りもなく闘い抜いた我を自身にかけられこきこいる攻撃を、はね返し、オニ波の方向を切り拓こう。共に闘う我々の合言葉、弾圧にはより巨大な反撃を！